

3. 5 単位空間の計画 (A案をベースとして諸室廻りの検討を行った)

3. 5. 1 普通教室廻り

● 学習面、生活面において多様な活動を可能にする環境づくり

ー シンプルでフレキシビリティに優れた空間とする。

- ・ 2クラス1ユニット単位を基本とし、クラスや学年の実態に合わせ、教員や児童が自由に可変できる空間計画を行う。
- ・ クラス数の変動に伴う学年配置変更にも対応できる設えとする。
- ・ 児童の体躯の発達、新JIS規格による机・椅子の大型化(机寸法70cm×50cm)に合わせた十分な普通教室の面積を確保する。
- ・ 多目的スペースは、学年集会や多様な学習活動、休み時間の児童交流などの活用に十分な広さとまとまりのある空間を設ける。
- ・ 普通教室は、可動式間仕切りなどにより、単独で使用することも、多目的スペースと一体的な使用もできる設えとする。
- ・ 多目的スペースには、大型テーブルやパーティションなど学習活動の規模に応じ適した使い方のできる可動式の家具を設置する。
- ・ 普通教室ユニットに近接し学習室を設置することとし、更衣室との兼用も検討する。
- ・ 多目的スペース内に、学年ミーティングや教材作成も可能な教師コーナーの設置を検討する。また、教室においても教師の執務に必要な収納スペースの確保を検討する。
- ・ 教員の目が児童に行き届くよう配慮すると共に、児童と教員のコミュニケーションが誘発されるような形状の工夫を行う。

ー 多様な学習活動を展開する上で、十分な広さの普通教室面積を確保する。

ー 普通教室と一体的な利用が可能な多目的スペースを配置する。

ー 少人数学習、習熟度別学習、個別学習等の様々な授業展開に対応可能な空間とする。

ー 教員のためのコーナーを配置する。

● 児童が安心して気持ちよく生活できる空間づくり

ー 児童の身体スケールに合った空間づくりを行う。

- ・ 多目的スペースは、学年が集まれる広さの空間とする一方で、児童にとって過大な空間とならないよう配慮する。
- ・ 「デン」、「図書コーナー」、「ベンチ・ソファコーナー」、「床座コーナー」、「アルコブ」など児童の身体スケールに合った居心地の良い空間を様々なコーナーとして設ける。児童の発達段階や学年の実態に応じた空間づくりができるよう、家具等による可変的な設えとするのが望ましい。
- ・ 低学年ユニットでは「デン」のような落ち着いた空間を普通教室内に設置することを検討する。
- ・ 自然素材を主体とした児童に優しい仕上げとし、内装木質化を検討する。

ー 児童の様々な居場所をつくる。

ー 優しく温かみのある内装とする。

● 快適な学習・生活環境づくり

ー 安全性や衛生面に十分な配慮を行う。

- ・ 鋭利な凹凸のない空間とする。
- ・ 適度に弾力性があり、柔らかな手触りや温かみのある素材を用いる。
- ・ 衛生面に配慮し、カーペット等の全面的な使用は控える。
- ・ 学年ユニット内には十分な量の流しを設ける。普通教室からの距離、位置関係に配慮する。
- ・ オープン利用が可能な空間として、吸音性能や遮音性能に十分な配慮を行う。
- ・ 自然採光を有効に活用できる計画とし、照明エネルギー削減に努める。
- ・ 児童の持ち物用の収納スペースを適切に確保する。
- ・ 多目的スペース内に適切な広さの教材コーナーを設ける。
- ・ 学年ユニット内には無線LAN環境を構築することを検討し、ノートPCやタブレット活用の自由度を高める。
- ・ 図書コーナーに近接して、児童が自由に使えるPCやタブレットを設置する。
- ・ 黒板が隠れない位置に授業時に使用できる資料掲示用の設備を設置する。
- ・ 展示等が行える十分な壁面、スペースを確保するものとする。折畳んで収納できる壁を設置する等の工夫を行う。
- ・ プロジェクターや大型テレビの導入を検討する。

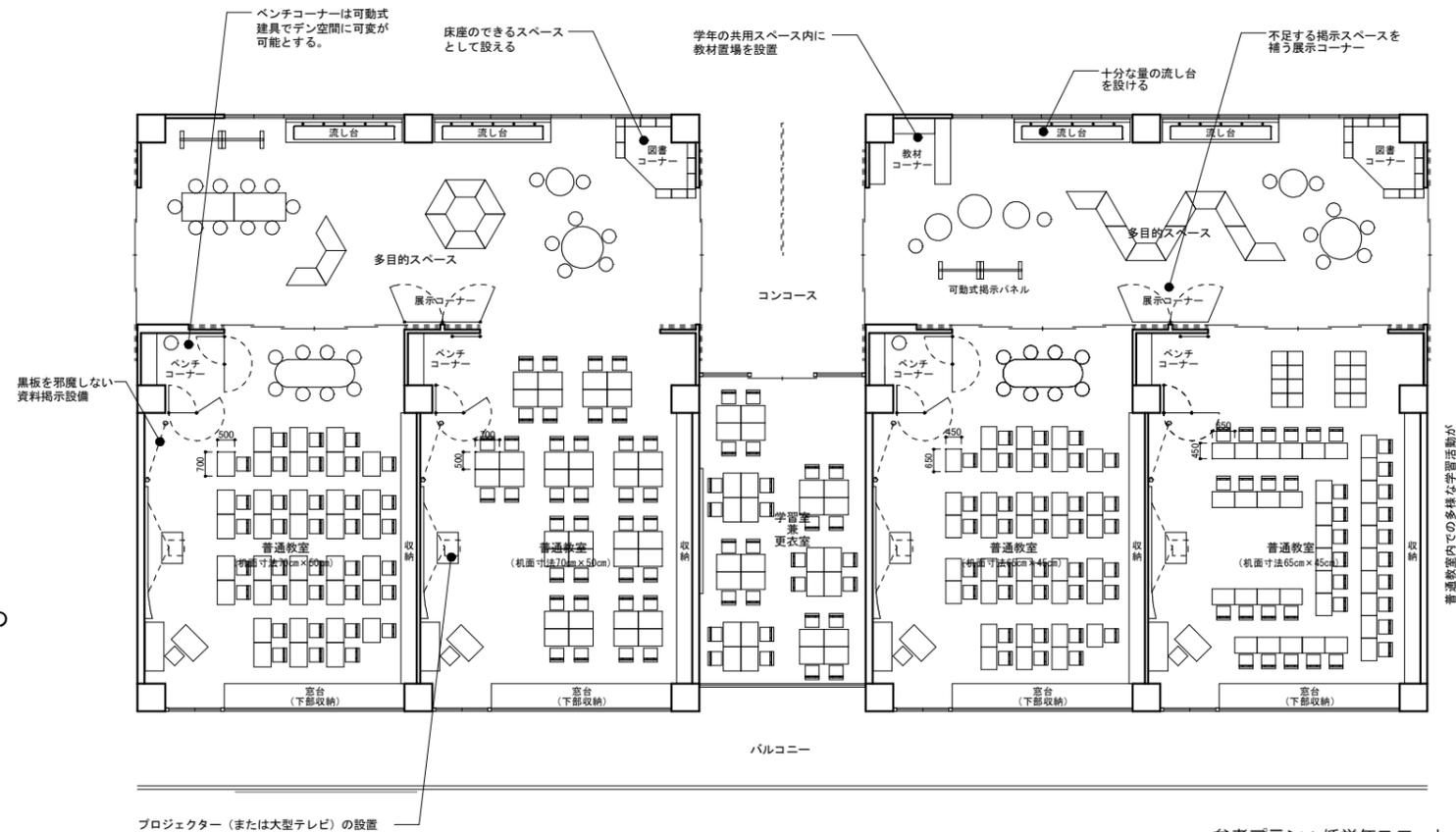
ー 学習環境として適切な音環境を確保する。

ー 学習環境として適切な光環境を確保する。

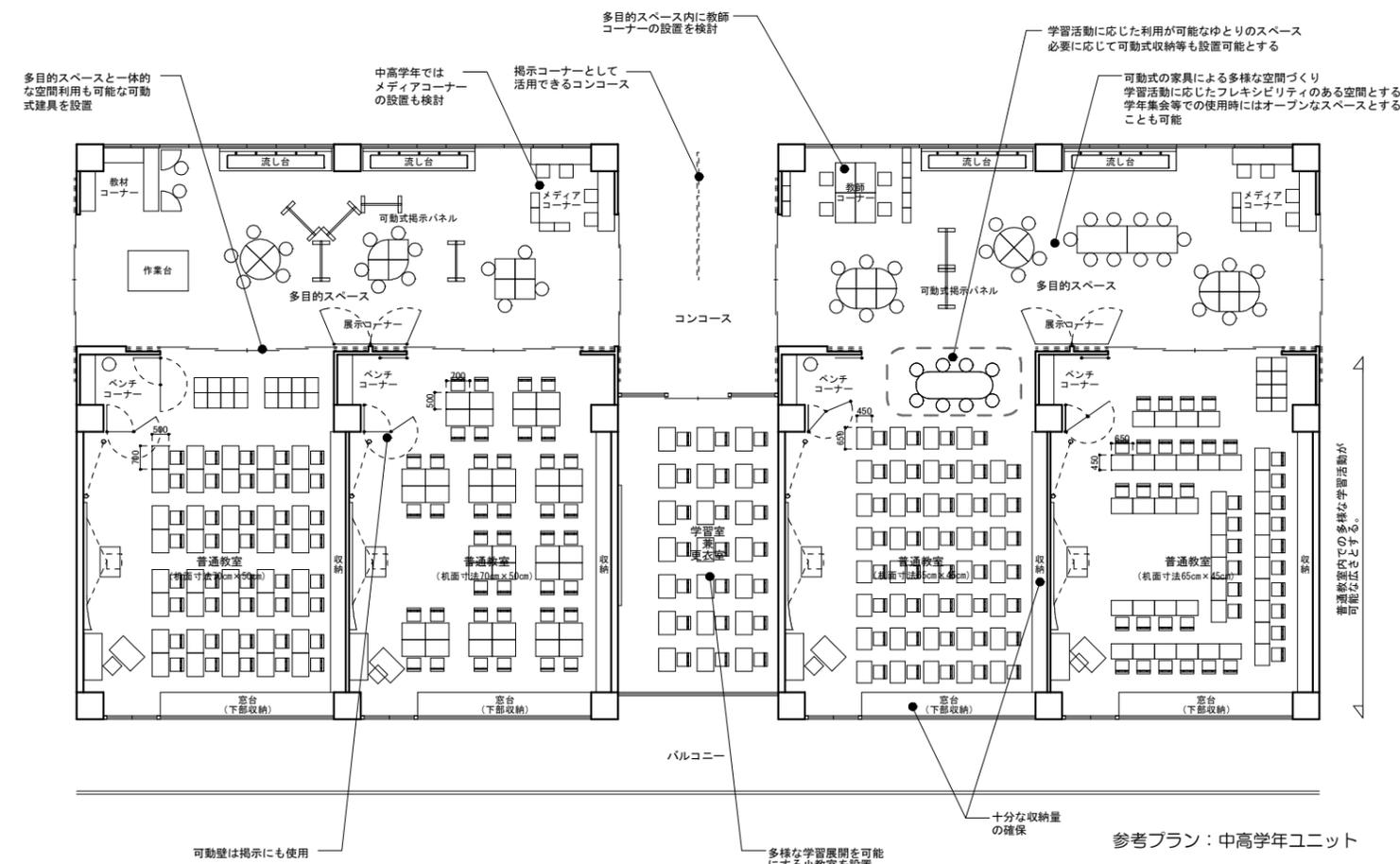
ー 学習環境を阻害しない適切な量の収納スペースを確保する。

ー 学習活動をサポートする設備を導入する。

参考プラン S: 1/200



参考プラン：低学年ユニット



参考プラン：中・高学年ユニット

3. 5. 2 理科室廻り

【ヒアリング、ワークショップでの主な意見】

- ・ 実験等で理科室を使うのは高学年で各学年30～40時間/年。4年生では理科室の使い方を学ぶ単元や顕微鏡を使用する実験で理科室を使う。
- ・ 普通教室で行える実験やグループ学習であっても本当は教科教室的なスタイルで出来る限り理科室を使える方が望ましい。
⇒理科室2室設置の検討
- ・ 単元や実験内容により実験台が固定された理科室よりも広いスペースが必要になることがある。理科室内にそのようなスペースがあったり、あるいは実験台を動かしてスペースをつくれたり、近接した場所にオープンスペースがあると使いやすい。
⇒実験台のコの字配置、可動式実験台、メディアスペース、多目的ホールとの隣接など、利用の幅を拡げ、より高度な理科教育を実践できる場を形成することを検討。
- ・ 黒板は横長の方が良い。また、黒板の脇に資料掲示用設備があると良い。
- ・ 実験台の高さは68cmでは低い。
- ・ 光学顕微鏡、2人で1台使用のための電気容量の確保が必要。

○理科室の基本的な考え方

- ・ 理科教育推進に向けて、理科ゾーンとして理科学習活動に必要な様々な機能を集約して配置する。
- ・ 使用目的に応じ設えの異なる理科室を2室設置することを検討し、積極的な理科室利用の向上を図る。

○理科室1、2

- ・ 理科室1、2の設えについては、その使い分けや主に対象とする学年、授業外での活用方法などを基本設計段階で十分に検討の上決定する。
- ・ 特に実験台の形状及び配置は、児童の作業性、教師からの視認性、可動式とするか等十分に検討を行うこととする。（参考プランを参照）
- ・ 教員用実験台の前には演示実験等に活用できる空間を設けることが望ましい。
- ・ 適切な容量の実験器具等の収納スペースを確保する。
- ・ 適切な量の流しを確保する。
- ・ 片方の室は多目的ホールと隣接した配置を検討する。
理科室一多目的ホール間の間仕切りは、スライディングウォールによるものとし、一体的な利用が可能な設えとする。（より広いスペースを必要とした実験での活用や研究授業や教員研修、理科教育研究会、イベント等の開催時の利用を想定。）

○準備室

- ・ 理科室2室用の準備室として適切な広さを確保する。

○理科メディアスペース

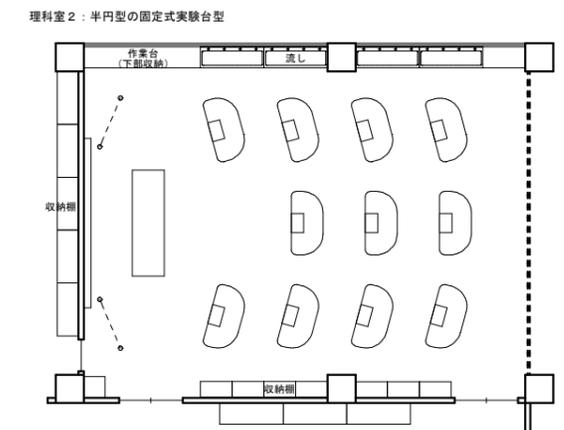
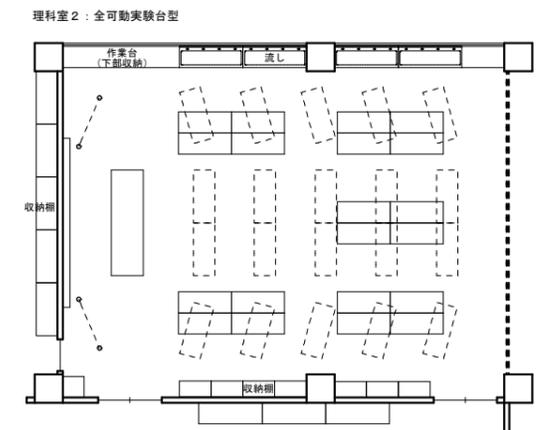
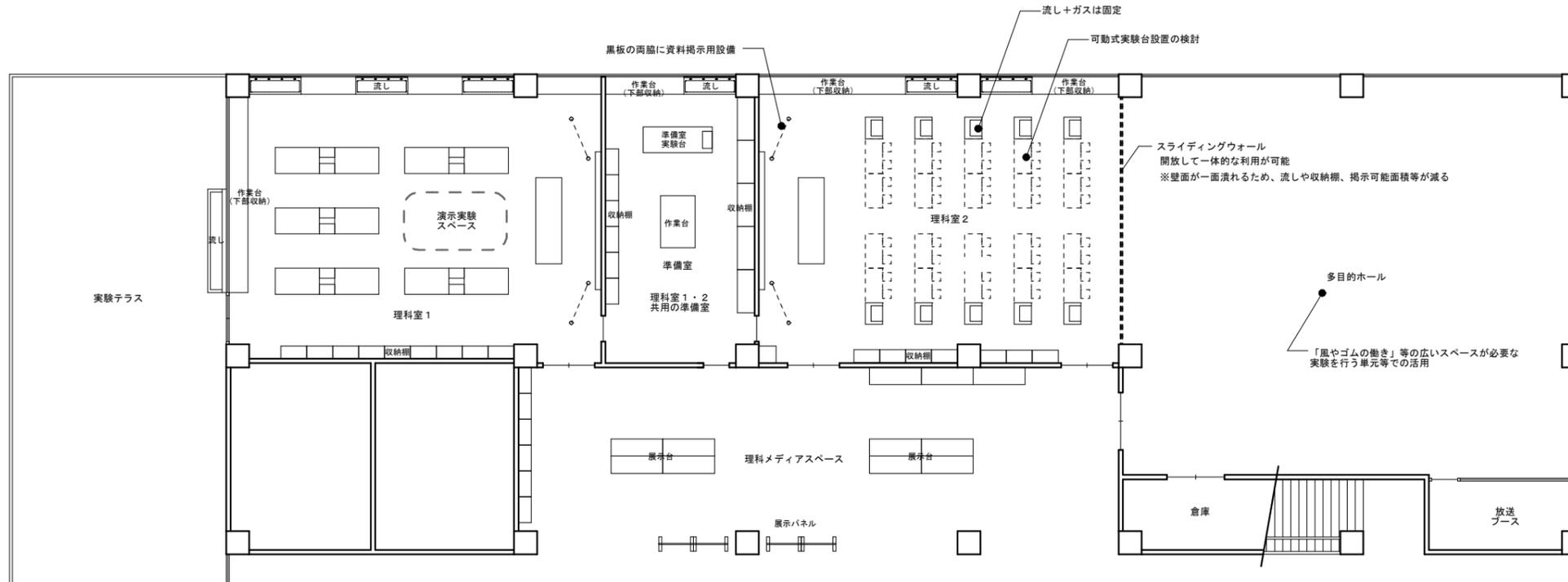
- ・ 理科室前の廊下に面した部分には理科メディアスペースを設け、理科授業時以外にも児童へ理科の魅力を伝える空間として活用する。
- ・ 理科に関連する図書等のメディア、模型や標本等の展示物の充実を図る。
- ・ 調べ学習の発表の場となるよう十分な掲示面を設ける。
- ・ 学習展開により理科室から連続して実験等で利用できる空間とする。

○実験テラス

- ・ 理科室と連続して屋外での実験等が可能なテラスの設置を検討する。
- ・ 観察園や菜園等との連携による屋外からのアクセスも検討する。

○その他の設え

- ・ 安全な耐衝撃性能を確保し、かつ掃除が行いやすく、水に濡れても滑りにくい床仕上げとする。
- ・ 薬品の気化に留意し、十分な換気、排気設備を確保するとともに、通風に配慮する。
- ・ 学習環境に適した安定した光環境を確保すると共に、用意に暗転できる設えとする。
- ・ ICT環境の充実や、黒板脇の資料掲示設備等に配慮する。
- ・ 実験台の高さは児童の身体寸法を考慮した実験しやすい高さとする。また、教師用実験台に関しては児童からの見やすさに配慮すること。

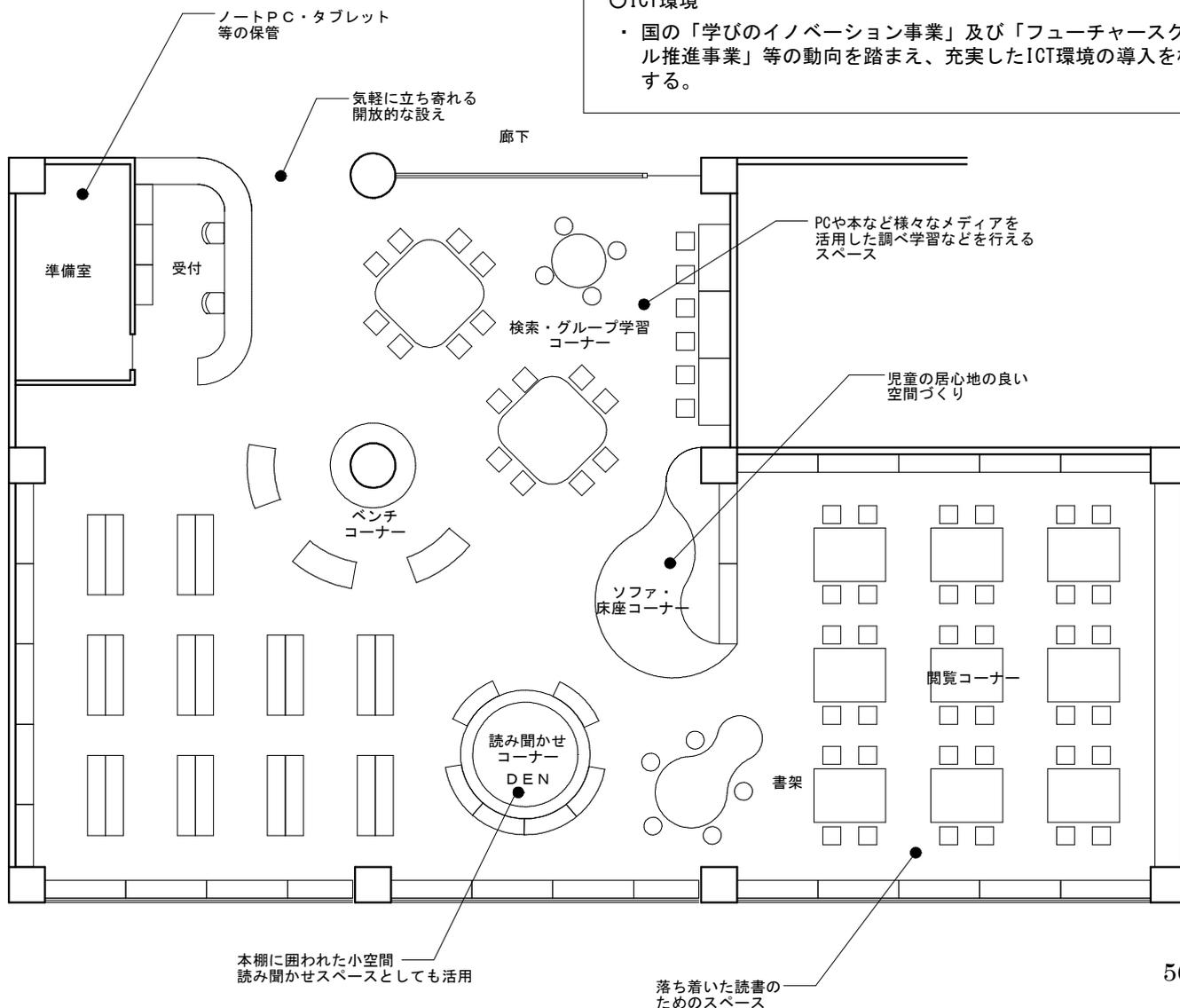


3. 5. 3 メディアセンター廻り

【ヒアリング、ワークショップでの主な意見】

- ・ 様々な教科で調べ学習が重要となるため、PC室と図書室が一体化していると便利である。
- ・ 普通教室と近い場所に配置されるとよい。
- ・ PC室というものが自体がいらぬのではないか。図書室の閲覧スペースにノートPCやタブレットを持ち込んで活用するような形式も有り得る。
- ・ 授業以外で休み時間に本を読みに来るような児童への配慮（畳コーナーのような居心地のよいスペース）も必要。

参考プラン S:1/150



○基本的な考え方

- ・ 図書室、PC室として別々に設置するのではなく、一体的なメディアセンターとして整備し、調べ学習等の多様な学習形態の受け皿とする。（ガラス引き戸などで仕切り別々に利用できるような配慮する。）

○利用しやすさへの配慮

- ・ 日常的な利用のしやすさに配慮し、共用部と一体となったオープンタイプの室とする。
- ・ 学校の中心として把握しやすく、普通教室ゾーンからも気軽に訪れやすい位置に設けることを検討する。
- ・ 読書と調べ学習が別々に利用可能となるような設えを検討する。
- ・ 地域開放の可能性も視野に入れた配置を検討する。

○利用形式

- ・ 検索コーナーには常時使用できるPCを数台設置することを検討する。
- ・ その他は、貸し出し利用形式のノートPCやタブレットを設置することとし、全館無線LAN対応として普通教室等へのマルチメディア機器の貸し出しも可能とするのが望ましい。

○滞在したくなる魅力的な空間づくり

- ・ 授業時間以外でも児童たちの積極的な利用を促すため、滞在したくなるような魅力的で落ち着く空間づくりを目指す。
- ・ 様々な過ごし方ができるよう、本棚等に囲まれた場所、開放的な場所、椅子での読書、ソファや床座など、多様なコーナーを計画する。
- ・ 木などの自然素材を多用した温かな空間とする。

○ICT環境

- ・ 国の「学びのイノベーション事業」及び「フューチャースクール推進事業」等の動向を踏まえ、充実したICT環境の導入を検討する。

3. 5. 4 音楽室廻り

【ヒアリング、ワークショップでの主な意見】

- ・ グループ練習ができる小部屋があるとよい。また、見通しがきくガラス張りが望ましい。
- ・ オープン型の普通教室の場合は、鍵盤ハーモニカの演奏や合唱を普通教室で行うと音が他のクラスにも漏れてしまい、授業を行うことが困難となるので、第2音楽室があることが望ましい。
- ・ 楽器がチョークで汚れないように黒板ではなくホワイトボードがよい。
- ・ 音楽室の黒板は横長がよい。
- ・ 音楽室内に流しが必要。

参考プラン S: 1/150



○基本的な考え方

- ・ 音楽の魅力を引き出す環境をつくる。
- ・ 器楽や歌唱、鑑賞に相応しい適切な音響性能を確保する。

○音楽室

- ・ 鑑賞学習や講演会等にも対応した小ホールとしての使用も考慮し、適切な広さと設えとすることを検討する。
- ・ 音楽を楽しめる雰囲気の設定とする。
- ・ 近隣や他の教室へ配慮し適切な遮音性能を確保する。
- ・ プロジェクターや性能の良いスピーカーなど視聴覚設備を充実させる。
- ・ 十分な掲示面積を確保する。
- ・ 室内に手やりリコーダー等を洗える流しを設ける。
- ・ 家具はメモ台付き椅子など、音楽活動を考慮した使い易いものとする。
- ・ 楽器庫と合わせ、十分な量の楽器保管スペースを設ける。
- ・ 横長の大型黒板やホワイトボードの設置を検討する。
- ・ 小ステージの設置を検討する。

○練習室

- ・ グループ練習等が行える適切な広さの練習室を2室設ける。
- ・ 音楽室内からの視認性に配慮する。
- ・ 適切な音響性能および遮音性能を確保する。

○準備室・楽器庫

- ・ 準備室と楽器庫を別々に設ける。
- ・ 楽器の種別、数量、寸法等に留意し、充実した収納スペースを設ける。

○その他

- ・ 多目的室や屋外空間と一体的に利用できる施設計画も検討する。
- ・ 屋内運動場や屋外への楽器の移動に配慮した室配置が望ましい。(1階への配置、あるいは屋内運動場やエレベーターへの近接など)